

学会便り

AIAA

20th ICSSC(International Communications Satellite Systems Conference)

本誌編集委員 風神 裕

第20回 AIAA ICSSC は、2002年5月12日から15日まで、カナダモントリオール市の Hilton Montreal Bonaventure ホテルにて開催された。主催者側の発表によると登録参加者は320名。



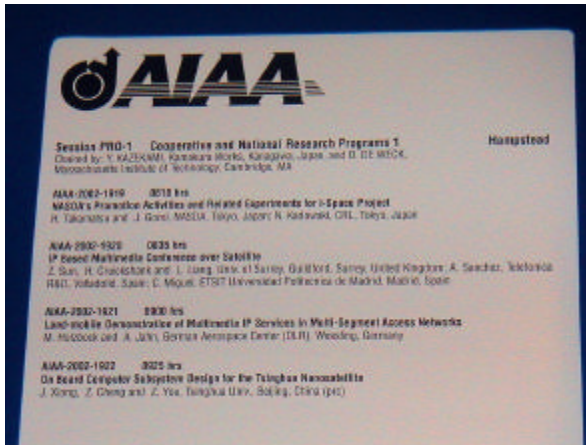
コロキウム会場の様子

大会初日は ICSSC 恒例のコロキウムが開催された。今年のテーマは「Satellite Broadband Access to the World Key Business and Technology Considerations」であり、SS/L 社の Mr. B Nations の司会により、進められた。「Business & Financial Considerations」「Systems and Special Considerations」「Communications & Networks」「Standardization and Production」の4講演とパネル討論会の予定であったが、「Business & Financial Considerations」の

講師が間に合わず、急遽、本大会のプログラム委員長である SS/L 社 Hoeber 副社長が代理講演するというハプニングもあった。出席者は79名。内容のあるコロキウムであった。

本会議は、5月13日、大会会長であるカナダ CRC の Dr. Jack Rigley の開会宣言から始まり、Canadian Space Agency の Mr. Marc Gameau による Keynote Opening Address、引き続き、ATT カナダの Mr. John Feneley 司会にて Plenary Session 「Delivering Profitable Satellite Broadband Access Services: Service Providers' Perspective」が行われた。この Plenary では、TelesatCanada から「衛星通信はスポットビームのシェアコースで高利益が見込める。カナダでは Anik F2 を打上げ、48ビームを活用。ESA と CRC が実験を担当。地上設備は Gillat/EMS が TelesatCanada に提供」、ESA から「FSS/DBS 向けに大型衛星プラットフォームの開発を検討、2006 初号機打上げを目指している。静止軌道上で 20kW、8トン 1.2B ユーロを投資する。」、Eutelsat から「月額25ユーロで衛星サービスを提供。地上の DSL とコンパチ 2 Way でコンテンツ、データ配信に供する。」と

の報告があった。



筆者担当セッションの掲示版

13日午後から、15日まで Technical Programs が、各 Session 毎に6会場で行われて進められ、合計220件の論文発表が行われた。なお、ICSSC では初めての試みとして、印刷された論文集の配布は無く、大会開催の10日前からオンラインにて配布された。また、参加登録者にはカナダ EMS 社の好意による CD-ROM が配られた。下名は「Cooperative and National Research Programs 1」のセッションチェアを MIT Dr.DeWeck 教授と共同で担当。聴衆は40名程度であった。NASDA 高松氏から

i-Space の実験計画に関する報告、英国サリー大学 Dr. Sun とドイツ DLR Dr. Holozbock から EuroSkyWay Program での IOP 実験結果の報告、中国 Tsinghua 大学 Mr. Xiong から市販の CPU を用いて OBC の報告があった。このセッションは、共同議長が米国籍のスイス人、発表者は日本人、英国籍の中国人、ドイツ人、中国人と国際色豊かであった。展示は13日、14日に開催され、合計10社から出展があった。展示出展者数の減少食い止め策が、今後の課題とのこと。

また、15日の Award Luncheon にて、本年度の AIAA Aerospace Award として、米国ジョージワシントン大学の Dr. Niel Helm と通信総合研究所の飯田理事長が表彰された。



飯田氏の受賞風景



Dr. Helm の受賞スピーチ